

広報

かみす

2024年
9/1・15

No.421

Kamisu public relations

折込 まなびアイかみす

特集

コウノトリ

共につなぐいのちの環

Pick up

息栖神社周辺地域振興拠点施設の愛称募集…… P6

かみす舞っちゃげ祭り2024 …………… P6

9月1日は防災の日 …………… P10

「幸せを運ぶ」ともいわれるコウノトリ。自然豊かでエサが豊富な神栖市には毎年多くのコウノトリが飛来し、ヒナも生まれています。



市メールマガジンはコチラ

AR

広報かみすが動き出す

【COCOAR】アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳しくは18ページ



【COCOAR】





神栖ディスカバリー

File 15

特集

コウノトリ

共につなぐいのちの環わ

かつて、一度は日本の空から姿を消したコウノトリ。いまでは復活して数が増えつつあり、神栖市に飛来してヒナも生まれています。今回は、神栖市とコウノトリの関わりや保護活動についてご紹介します。



復活した貴重な鳥が、全国から神栖市へ

コウノトリは絵本などでおなじみですが、実際に飛んでいる姿を見たことはありますか？ 羽を広げると2メートルもある大きな鳥で、悠悠と空を舞う姿は美しく印象的です。絶滅危惧種であり、国の特別天然記念物に指定されている貴重な鳥です

が、実は神栖市に生息し、ヒナまで誕生しています。

さて、コウノトリが神栖市に飛来するまでには長い物語があります。まずその歩みを振り返ってみましょう。

1870年代後半(明治初期)、コウノトリは日本全国にいる身近な鳥でした。その後、戦争の影響やエサの減少により数が減っていき、1955(昭和30)年ごろから保護活動が始まります。しかし1966(昭和41)年には兵庫県豊岡市でしか見られなくなり、とうとう1971(昭和46)年に最後の1羽が死んで野生絶滅してしまいました。

豊岡市では、何とかしてコウノトリを復活させようと手

を尽くします。そして、生息地の整備や繁殖に取り組み始めてから24年目の1989(平成元年)、ようやくヒナが誕生。その後も野生復帰を進め、2005(平成17)年に試験放鳥を開始し、2010(平成22)年には全国に分散し始めたといえます。

翌2011(平成23)年4月13日、豊岡市生まれのコウノトリが初めて神栖市で確認されました。2015(平成27)年以降は市内で毎年見られるようになり、兵庫県豊岡市・養父市、福井県坂井市・越前市、京都府京丹後市、徳島県鳴門市、千葉県野田市、栃木県小山市など、全国各地から飛来しています。

コウノトリに選ばれたまち

関東でコウノトリがたくさんいるのは渡良瀬遊水地と利根川河口部で、野田市には飼育施設があり放鳥もしています。2020(令和2)年には渡良瀬遊水地で、東日本で初の野外繁殖が確認されました。神栖市でも去年と今年、2年連続でヒナが生まれ、合計10羽が巣立っています。

ところで、どうして神栖市で繁殖までするようになったのでしょうか？ 兵庫県立コウノトリの郷公園・主任

研究員の布野隆之さんに聞きました。

「去年の時点で日

本のコウノトリは約360個体まで増え、ほぼ全国で目撃されています。ただし、繁殖しているのは47都道府県のうち13府県だけです。コウノトリは全国各地をぐるっと回って、最後に繁殖したいところに行つて定着するパターンが多いので、神栖市がコウノトリに選ばれたということになりますね。選ばれた理由は、自然豊かでエサが豊富にあることに加え、地元の方々に愛されて受け入れてもらっているからだと思っています」

人工巣塔で安心の巣づくりを

まさに愛情たっぷり、地元でコウノトリの見守りを続けているのが波崎愛鳥会です。会長の柳堀弘さんに活動の様子を聞きました。

「2019(令和元)年に、野田市生まれの翔(オス)と未来(メス)のつがいが高圧鉄塔に巣づくりを始めたんです。でも感電や衝突などの危険があ

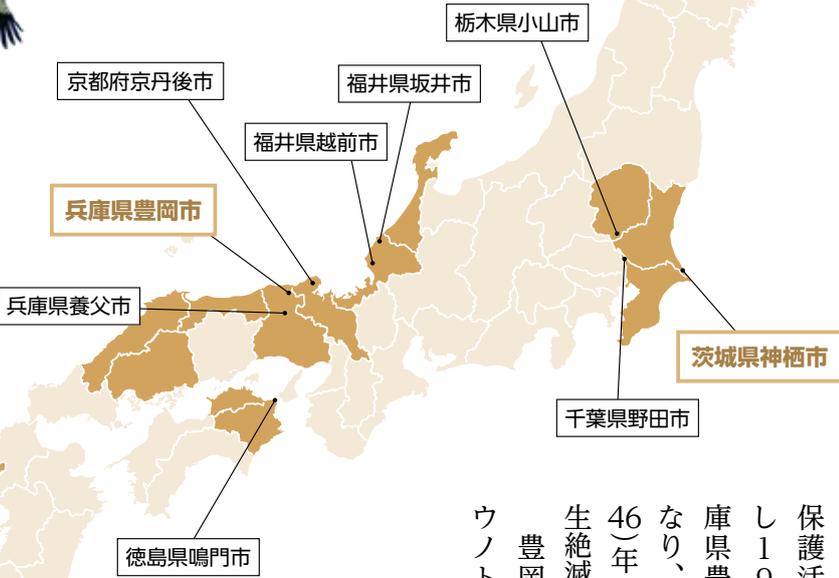


布野さん



人工巣塔

神栖市に飛来したコウノトリの出身地



コウノトリの繁殖が確認された地域

2005年の試験放鳥以降、日本でコウノトリのヒナが生まれ育ったことがある地域は13府県26市町村(2023年12月末現在)。関東では、神栖市のほか茨城県行方市、千葉県野田市、栃木県小山市でコウノトリの繁殖が確認されている。(参考：兵庫県立コウノトリの郷公園ホームページ)



①



②



③



⑥



⑤



④

①手早く体温測定や体長の計測などが行なわれる ②巣の周辺にはエサが豊富な田園が広がる ③落下防止のため網でヒナを押さえる ④慎重に高所作業車からヒナをおろす ⑤驚いてパニックにならないよう目隠しをされたヒナ ⑥足環の装着

るため、電力会社が巣を撤去せざるを得ませんでした。そこで、安心して巣づくりができるよう、皆様のご協力をいただいて、2020年に人工巣塔を建てました」

このプロジェクトは、波崎愛鳥会、日本野鳥の会茨城県、山階鳥類研究所、日本生態系協会の呼びかけで始まったもので、今年

までに3基が設置されています。



柳堀さん

「巣塔を建てれば、すぐに巣づくりをしてくれるだろうと期待していたのですが、なかなかそうもいなくて。最初に建てた巣塔で、去年初めてヒナが孵りました。気長に待つことが大切なようです」
さらに、株式会社クラレ鹿島事業所が、神栖市の企業版ふるさと納税を通して、コウノトリ事業を支援することにになりました。

ヒナの検査と足環装着

コウノトリは冬に巣づくりをし、春に卵を産み、夫婦が交代で温めて4月から5月ごろにヒナが孵ります。そのヒナに足環をつけ、健康診断をする作業が5月21日に矢田部地区、6月5日に太田地区で行なわれました。

た。5月は、わたる(小山市生まれ4羽・10310)とバレちゃん(養父市生まれ6羽・10214)のペアから生まれた2羽(10768・10769)です。今回は、6月5日の様子をご紹介します。

野田市と行方市の職員や、兵庫県立コウノトリの郷公園の主任研究員をはじめ、埼玉県こども動物自然公園、上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園などの獣医師や飼育員など20人近くが参加。うち数人が高所作業車のバケットに乗り込み、巣から2羽のヒナを地上におろします。ヒナたちは、驚いてパニックにならないよう目隠しをされ、体温上



昇を抑えるため保冷剤入りのおくるみに包まれた状態で連れてこられました。

地上に設置されたテントでは、早く血液や羽毛の検体採取、体温測定、大きさの計測、足環装着などの作業が行なわれていきます。すべての作業は約40分で終了。再び高所作業車に乗ってヒナを巣に戻すと、心配そうに空を旋回していた親鳥がすぐに飛んできました。

豊富なエサで順調に育つ

足環をつけるのは個体識別をするためです。左右の足環の色や個体番号を見れば、生年月日、性別、生まれた場所などが分かるようになっており、兵庫県立コウノトリの郷公園

で全国のデータが管理されています。いわばコウノトリの戸籍のようなもので、親子関係の「家系図」もたどれるようになっていきます。

今回調べたヒナの体重は、4・2キロと3・9キロ。その数値に布野さんの顔がほころびます。「大きいですね。とても健康で順調に育っています。神栖市には、おいしくて良いエサがたくさんあるのでしょね」

どういいうエサを食べているか、柳堀さんはよく知っています。「ヘビ、ウシガエル、ザリガニ、ドジョウ、魚、なんとモグラまで捕まえます。生きているものは何でも食べますね」

コウノトリの首の根元には袋があり、大きくて重いエサを生きている状態で飲み込んで、巣で袋から戻して

ヒナに与えるのだそう。巣には食べ残しがほとんどなく、驚くほどのきれいな状態が保たれているといいます。

会えることがうれしい！

布野さんは研究者として、健全なコウノトリが増えて、より強い個体群が形成されるよう調査研究に取り組んでいます。「数が増えても絶滅危

惧種であることに変わりはありません。今後、全国の繁殖地点でどれくらい自然再生の取り組みをしていくかが、個体数の増減に影響してくるでしょう。ここからが正念場です」

その思いに応えるかのように、波崎愛鳥会ではビオトープづくりに乗り出しました。「休耕田をお借りして浅い池をつくり、見守りカメラをつけました。コウノトリ

だけでなく、サギやカモも来ています」

生活環境部環境課の伊東大輔課長補佐は、今後の取り組みについて次のように語ります。「足環装着は市が責任を持って続けます。また、今年

らヒナの「愛称募集」をしたいと考えています。ただ、

コウノトリに親しんでほしい一方で、保護のためには静

かな環境を守らなければなりません。市民の皆さんには、ぜひ150メートル以上離れたところから観察していただけるようお願いします」

最後に、柳堀さんにとってコウノトリはどのような存在なのか聞いてみました。「会えるとうれしい存在ですね。コウノトリは幸せを運ぶといわれていますが、姿を見ると誰もが本当に楽しい気分になるんです。私は、利根川沿いの葦原の上空を数羽で飛んでいる風景が好きです」

神栖市が、人と自然とコウノトリが心地よく共存できるまちとなることを願って、皆さんも空を見上げてみませんか？



伊東さん



人工巣塔への巣作りと、生まれたヒナを見守るコウノトリ。地元で活動する波崎愛鳥会のメンバーが、コウノトリの親子を見守り続けている



自然豊かな神栖市はコウノトリのエサも豊富

コウノトリを観察するときの注意点

コウノトリは警戒心の強い鳥です。観察するときは150メートル以上離れ、温かく見守りましょう。



▲コウノトリ個体検索(兵庫県立コウノトリの郷公園ホームページ)